

14 安室東地区

大池・中池

大池の水の出口から水路がつながって、田寺、辻井、今宿のかんがい用水として利用されています。昔、雨が降らず水不足になったときは、用水をめぐって争いが起こっていました。一間宗五郎の墓の上には、水の争い手柄をたてて亡くなった3人の墓が建っています。

北山古墳

道標のある山道を100mほど進むと、「北山古墳」と書かれた木の柱があります。高さ2.3mほど土が盛られていて、横の穴からのぞくことができます。1400~1500年前のものではないかと思われます。この古墳の東北の方向の山のふもとにはたくさんの古墳の跡があります。

北山の道標

山道を進むと北山古墳があります。その途中に二つの道標があって、それぞれの面には、書写山、鹿谷道、ひろみね、ほっけ山、たつの、むろつなどの地名が方角にあわせて彫られています。いずれも安政年間(1854~60)にここにおかれたものです。

高岡神社

高岡神社は、蛤山の高岳神社(延喜式内社)から分かれた神社として明治4年(1871)に大谷口という場所に移されて、田寺の守り神になりました。そのため高岳神社と同じ、仲哀天皇・応神天皇など八つの神さまがまつられています。

辻井遺蹟

辻井廃寺の跡地から少し東の田んぼの中から、2千年前から1万年前の土器・石器がたくさん発見されました。昭和15年(1940)には、考古学者の今里幾次先生が約4千年前の男の人の骨を発見しました。このことは新聞にも載ったので、この遺蹟が有名になりました。

The map highlights several key locations:

- やまとこうじんじゃ 山田荒神社**: Located near the northern part of the town.
- やくしどう 薬師堂**: Located near the center of the town.
- ひがしやまかんのんどう 東山観音堂**: Located on the eastern side of the town.
- やまとこうじんじゃ 行矢神社**: Located in the southern part of the town.
- おおいけ 大池** and **なかいけ 中池**: Located on the western side of the town.
- きたやま こふん 北山古墳**: Located on the northern side of the town.
- きたやま どうひょう 北山の道標**: Located on the northern side of the town.
- ひめじこうとう 姫路高校**: Located in the southern part of the town.
- やまとこうじんじゃ 高岡神社**: Located in the central part of the town.
- やまとこうじんじゃ 安室中学校**: Located in the central part of the town.
- やまとこうじんじゃ 安室東小学校**: Located in the central part of the town.
- つじいはいじ そせき 辻井廃寺の礎石**: Located on the southern side of the town.
- さんようじどうどう 山陽自動車道**: A major highway passing through the town.

A callout box on the right side of the map contains the following text:

縄文時代中ごろの重要な遺跡といわれている、辻井遺跡があります。この地区は早くから開け、人々が集まって生活をしていましたことが分かりますね。他にも人々が生活していた跡がないうか調べてみましょう。

Illustrations of two children, one in an orange shirt and one in a blue jacket, are shown interacting with the map. A speech bubble from the child in orange says: "調べたこと、分かったことを書いてみよう!" (Let's write about what we learned and understood!). A speech bubble from the child in blue says: "やすむろひがしちく 安室東地区" (Yasumuro Higashidai Area).

辻井廃寺の礎石

白鳳期のお寺の跡です。この石は大きな塔の中心となる基礎の石で、辻井宇藤ノ木の田んぼの中に残っています。昭和10年(1935)ごろまでは、6間(約10m)四方の草地でした。道路を広げる時、草地の土を利用するために掘りおこした時に発見されました。

ひがしやまかんのんどう 東山観音堂

東山観音堂は、書写山円教寺から枝分かれした歴史があります。もとは、今の善覚寺の場所にありました。善覚寺を建てるために大永7年(1527)に東山へ移され、東山観音堂とよばれて、長い間村人たちに敬われていました。

やくしどう 薬師堂

薬師如来像は木でつくられた高さ約72cmの像です。郷土の研究で研究してきた大貫繁次先生によると、室町時代中ごろにつくられたものといわれています。この像は昔、高取山の西南(今唐立団地の西)にあった長尾寺にまつられました。毎年4月8日、れんげの花につつまれた供養が行われています。

やまとこうじんじゃ 山田荒神社

まつられているのは奥津彦命と奥津姫命で、火の神さまとして地区の人々から信仰されています。江戸時代の終わりごろ、天保年間(1831~45)に灯りをともす運動が始まってから約170年間、氏子が順番に毎晩、常夜燈の火をともし続けています。

いくやじんじゃ 行矢神社

『播磨國風土記』という本に「八丈岩山に因達神(射楯神)という神さまがおられるから、この山のあたりを因達里という」と書かれています。山の南側の矢落村の人たちは、この神さまと南にある秩父山にまつられていた兵主神(大汝命)の二つの神さまを行矢神社におまつりました。